STだより⑤

子どものことばを育むコツ
～ ②大人が関わる時の具体的なテクニック
（インリアル：INREAL）～

今回は②大人が関わる時のことばかけや関わり方について具体的なテクニックを紹介します。

●前回の振り返り●

子どものことばを育むコツとして
子どもを見守る大人の姿勢（SOUL）をご紹介しました。

子どもが場面に慣れ自ら行動を始められるまで「静かに見守る」	Silence
何を考え、何をしているのか「よく観察する」	Observation
子どものコミュニケーションの問題について「深く理解する」	Understanding
子どものことばやサインに十分「耳を傾ける」	Listening

→詳しくはSTだより④をご覧ください。

●インリアルとは ●

　子どもの気持ちや考えを理解し「自分から伝えよう」という思いを尊重したアプローチです。

　ことばかけや関わり方について具体的な例を挙げて説明していきます。





Ⅰ.子どもの動作をそのまま
まねてみましょう

例：

子どもがクレヨンで描く様子を見て、
大人も同じように描く



大人がまねることで、人に反応してもらうことの楽しさを経験することができます

Ⅱ.子どもの音声やことばをそのまま　まねてみましょう

例：
子どもが言った「ばばば」を
大人が同じように「ばばば」
とまねる



自分の発する声には人の関心を引く効果があると
子どもに気付かせることができます。その気付きを通し、
人から声をかけられる楽しさを経験します。

Ⅲ.子どもの行動や気持ちを
身振りやことばにして知らせましょう

例：
「アイス」「ぺろん」「甘いね」
「冷たくて美味しいね」など
子どもの様子をことばにして伝える



子どもの行動に注目し気持ちを理解していることや
共有したい、一緒にコミュニケーションを図りたい
という意図を伝えることができます

Ⅳ.大人自身の行動や気持ちを ことばにして知らせましょう



例：

ニンジンを切る様子をじっと見る

子どもに「トントン切ってるよ」「おいしそうだね」など、大人の行動や気持ちをことばにして伝える

子どもが大人の行動や気持ちを理解する助けになります

Ⅴ.子どもの言い誤り（発音、意味、文法、使い方など）を正しく言い直して聞かせましょう

例：

子どもが言った「大きいの　ちりん」を

「大きい　きりんだね」と、子どもの発話

を受け止めたうえで返す

※指摘や訂正はしなくて大丈夫です☺

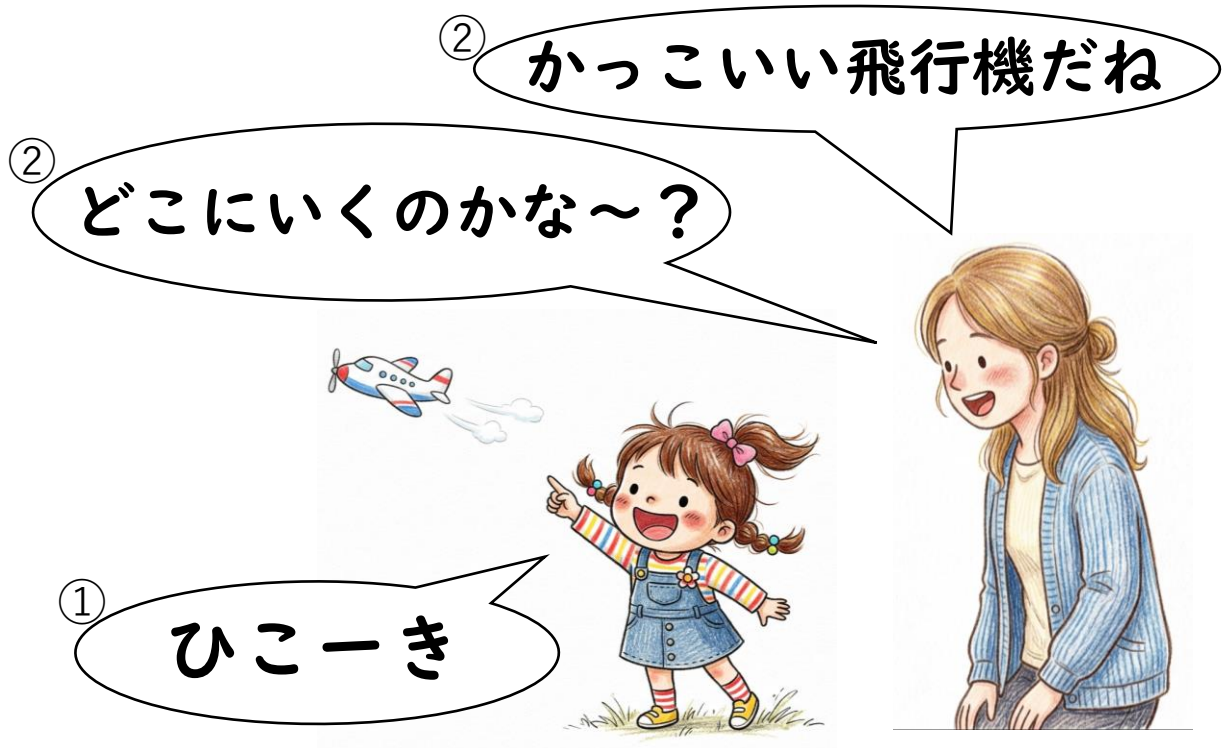


子どもの話したい気持ちを保ちながら
正しいことばの使い方を知る機会になります

Ⅵ.子どものことばに１～２語加え、内容をひろげて伝えてあげましょう

例：

子どもが言った「ひこーき」に「かっこいい飛行機だね」や「どこにいくのかな～？」など形容詞や動詞を加えて伝える



形容詞や動詞、助詞の使い方など
ことばのバリエーションを増やす機会になります

Ⅶ.“あなたの伝えたいことは、こう伝えるといいよ”　ということばや行動のモデルを示しましょう

例：
子どもが「もういっかい！」と言ったら
大人は「もういっかい おして～」と
モデルを示す
※必ずまねさせなくても大丈夫です☺



伝えたいことを表現するための
適切なことばや行動を知る機会となります

●まとめ①●

Ⅰ.動作をまねよう

Ⅱ.子どもの音声や
ことばをまねよう

Ⅲ.身振りやことばにして
知らせよう

出来るところから
日頃の生活の中に
取り入れてみましょう！

Ⅳ.大人の行動や気持ちを
ことばにして知らせよう

Ⅴ.言い誤りを正しく
言い直して聞かせよう

Ⅵ.内容をひろげて
伝えよう

Ⅶ.伝え方の
モデルになろう



●まとめ②●

・今回は、子どものことばを育むうえで
大人が関わる時の具体的なテクニック(インリアル)を
紹介しました。

・ことばの育ちで気になることがあれば、
園の先生や乳幼児健診、地域の保健師、
かかりつけの小児科等で相談してみてください。



●参考・引用文献●

１）河内清美,石井喜代香,大垣徳子,永安香,松尾育子 著.
竹田契一監修
「インリアル・アプローチ事典」薫化舎出版会

２）竹田契一,里見恵子 著.
「インリアル・アプローチー子どもとの豊かなコミュニケーションを築く」日本文化科学社

※イラストの無断転載はお控えください